

編集後記

国立大学法人となって2年目を迎え、当工学研究科・工学部技術部は、全学技術センター一部局系技術支援室工学技術系として多様な依頼業務に対応している。

平成7年度から発行し、平成10年度から「技報」と名称を改め発刊している本技報は、技術報告はもとより、技術部の活動等を含めた技術部全体の報告としてまとめている。依頼される業務を関連する技術系で行うことが通常となった今日、それに伴って各技術系毎の活動も盛んになってきている。

技術をもって研究教育を支えている大学内の技術部は、高度な技術を取得し、研究者と密接に連携をとりながら、技術支援および創造性豊かな技術開発を目指す部署である。存在感があり、不可欠な技術部を目指すためには、大学における高度化・複雑化する教育・研究や大学の社会に対する役割に応ずるための技術研修研鑽や個人や組織の更なる意識改革が重要である。団塊世代の退職に伴う技術の継承も含めて課題は多いが、技術職員それぞれが切磋琢磨して、工学研究科はもとより名古屋大学の発展に努力している今日、本報発刊の意義は大きい。

最後に、原稿をお寄せ頂いた、技術部長をはじめ、各執筆者ならびに発刊にご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

平成18年3月

技術部広報係

佐々木敏幸	電子・情報技術系
清水利文	装置開発技術系
櫻井幸夫	分析・物質技術系
川出義之	分析・物質技術系
千代谷一幸	電子・情報技術系
澤木弘二	電子・情報技術系